

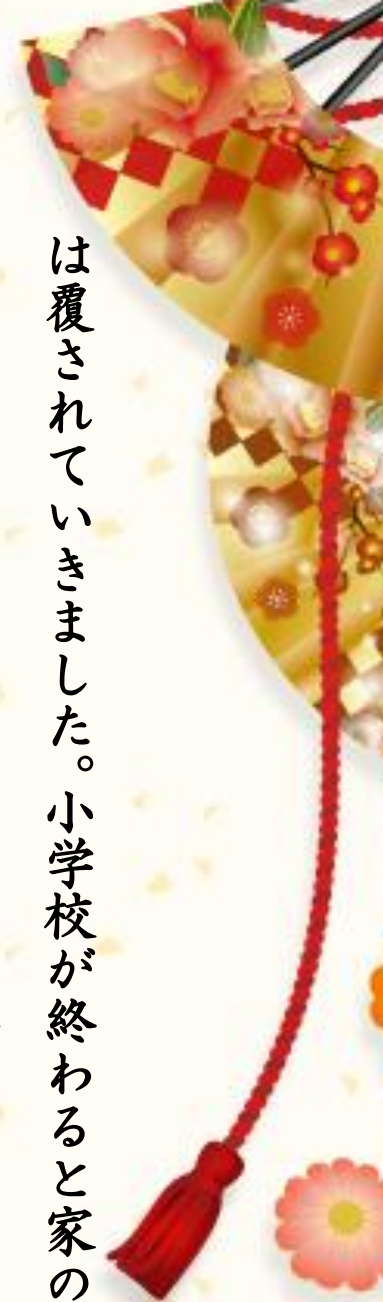


「夢に向かって」

六年間同じ場所へ登校する中で、小学校の校庭はたくさんの木々が広がり、四季折々の姿に変身していきました。学校と地域が強く結びついた環境の中で、私は活力に満ち、生き生きと学び、豊かに成長してきたのだと二十歳を迎えた今、改めて感じます。

高校生の時、学校生活や部活動を通して色々なことに興味を持っていた私は、将来の夢を一つに絞ることに苦戦しました。しかし、その頃たまたま参加した「子ども食堂」のボランティアをきっかけに「小学校の先生になりたい」と強く思うようになりました。

「子ども食堂」とは、貧困・孤食の子どもを対象とする場所だと思っていませんか？私はそう思っていました。しかし、毎週子ども食堂を楽しみにして、駆け込んでくる子ども達を見て私の考え



は覆られていきました。小学校が終わると家のように「ただいま」と子ども食堂に入ってくる子ども達や、宿題を見たり教えてあげたりしているスタッフの方、幼稚園が終わってお母さんやお父さんと一緒に入ってくる子ども達の姿を見て、貧困対策だけでなく食を通して地域と子どもと保護者のつながりを深める場所だと気づくことができました。そして、鳴門市には、子ども達のために考え、活動する人々がいることを知り、誇りに思いました。

私は現在大学へ進学し、教師になるべく教育学部で学んでいます。県内の大学へ進学したため、県外に憧れ、就職先は県外にしようと考えていました。しかし、教職について理解を深め、母校へ実習の挨拶へ行くうちに、子ども食堂や自分の小学校教育を思い出し、地元で就職したいと思うようになりました。また、大学では、チアリーディング部に所属し、徳島県内でのイベントにたくさ



ん参加して、徳島の地域活性化のために行動する方々と関われていることも地元でいたいと思えるきっかけになっています。

近年では、登校拒否の児童が全国的に増加傾向にあり、実際に徳島県でも不登校の児童が七年連続で増加し、過去最多を更新し続けているのが現状です。私は、小学校教員になって、学校を楽しい場所だと感じてもらえる先生になりたいです。それと同時に、不登校の子ども達を受け入れていくフリースクールで一人ひとりの子どもに合った寄り添い方をし、社会に出るための手助けもしたいと考えています。

大学で募集していた幼稚園のアルバイトを通して、小学校に入学する前の子ども達がどのような幼稚園生活を送っているのかを実際の保育現場で知ることができています。子ども達一人ひとりに寄り添うことの難しさを実感していますが、毎日、臨機応変に対応する幼稚園教諭から、大学





の講義だけでは学べない子ども達との関わり方を学ぶことができています。

二十歳を迎え、大人の仲間入りをした今、就職までの残りの大学生活の過ごし方はとても重要だと思います。子ども達の個性を大切にし、受け入れる心を持つために、大学の講義で知識を増やすことはもちろん、色々な活動に挑戦し経験を増やしていきたいと考えています。「私が未来の小学生を生き生きとさせるんだ」という思いを胸に、二年後、夢だった教育現場で活躍している自分の姿が楽しみです。そして、私を育ててくださった先生方と同じステージで働けることを楽しみにしています。

